

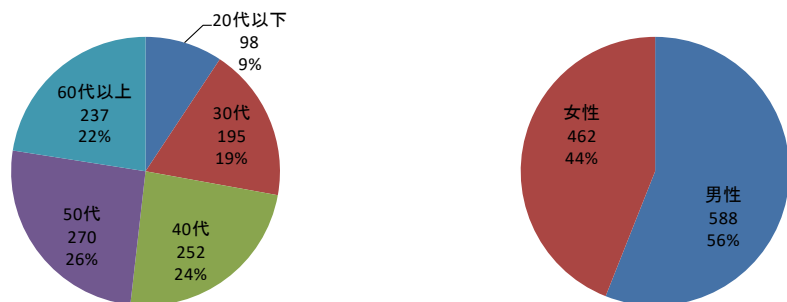
# 2019年台風19号災害時の災害情報 に関するアンケート(2019年10月実施) 【2019/10/29速報版】

静岡大学防災総合センター  
牛山 素行

この資料は、調査結果の一部を緊急に整理、公表するもので、  
集計結果、解釈などは、今後修正される場合があります

Shizuoka University

## 回答者の属性



- 30～50代の回答者が7割
- 男性がやや多い
- 回答者の居住場所は、郵便番号のみが回答として得られ、それより詳細は分からない
- 洪水の可能性がある「低地」居住と推定される回答者は804件(全回答者の77%)

Shizuoka University

## 調査手法

- インターネット社会調査サービスのNTTコムリサーチ利用
  - NTTコム オンライン・マーケティング・ソリューション(株)運営
  - 同社に登録しているモニターに対して調査依頼のメールを配信し、これに応じた回答者から先着順に一定数までの回答を受け付ける方式。
    - 割当法、目標回収数に達したら受付を終了、あるいは予定数に達するまで依頼を続ける方法
  - すべての質問について回答を入力しないと次画面に進めない仕様としており、「無回答」は存在しない。
- 対象者
  - 2019年台風19号通過地域で、洪水の可能性がある低地が比較的多い市町の一部
    - 「神奈川」: 平塚市、茅ヶ崎市、寒川町、海老名市
    - 「長野」: 長野市、須坂市、小布施町(大雨特別警報発表)
    - 「静岡」: 静岡市
    - 回答依頼メール2019年10月25日配信、10月26日締切。
    - 有効回答数、静岡358、長野356、神奈川336、計1050件。

※この調査の一部は、科学研究費補助金の研究助成によるものです。

Shizuoka University

## 大雨特別警報の意味に対する認識

今回の台風19号による災害より前の時点で、「大雨特別警報」とはどのような意味の情報だと思っていましたか。

※以下、特記以外は回答者数N=1050

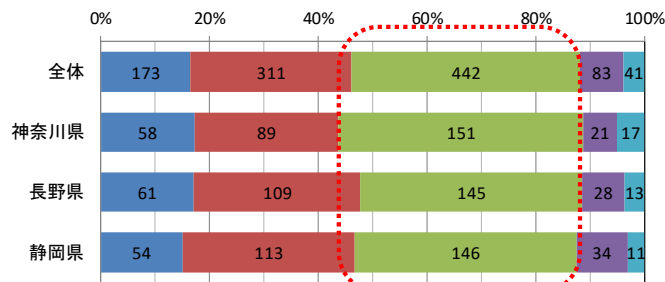
### 【選択肢】

- ① 災害の起こるおそれがあるので注意を呼びかけている
- ② 重大な災害が起こるおそれがあることを警告している
- ③ これまでに経験したことのないような、重大な危険が差し迫った異常な状況にあることを警告している
- ④ 「大雨特別警報」という情報があることは知っていたが、意味はよく知らなかった
- ⑤ 「大雨特別警報」という情報があること自体を知らなかった

Shizuoka University

# 大雨特別警報の意味に対する認識

今回の台風19号による災害より前の時点で、「大雨特別警報」とはどのような意味の情報だと思っていましたか。



- ①災害の起こるおそれがあるので注意を呼びかけている
- ②重大な災害が起こるおそれがあることを警告している
- ③これまでに経験したことのないような、重大な危険が差し迫った異常な状況にあることを警告している
- ④「大雨特別警報」という情報があることは知っていたが、意味はよく知らなかった
- ⑤「大雨特別警報」という情報があること自体を知らなかった

- 特別警報という情報の存在は9割以上(①+②+③+④)が認知
  - 意味を適切に認知(③)は5割前後
  - 実際よりも弱い意味に理解していた(①②)および意味を知らなかった(⑤)回答者が、5割前後(①+②+⑤)
- いずれも平成30年7月豪雨時の広島、岡山と概ね整合

※グラフ中の数値は回答者数

Shizuoka University

# 避難の情報に対する認識

災害時に、市町村から、「避難勧告」など、下の表に挙げた言葉の情報が出されることがあります。今回の台風19号の通過より前の時点で、これらの情報が、市町村から出される場合があることをご存じでしたか。

※回答欄の情報の順序は五十音順に並べたもので、内容的な意味はありません。  
※「災害発生情報」とは、河川について発表される「はん濫発生情報」とは異なる情報です。

## 【情報の種類】

- 災害発生情報
- 避難勧告
- 避難指示(緊急)
- 避難準備・高齢者等避難開始

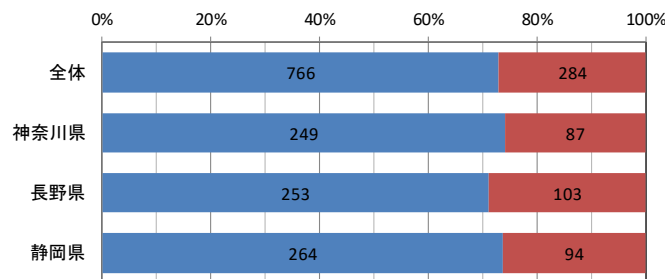
## 【選択肢】

- ① 知っていた
- ② 知らなかった

Shizuoka University

# 避難の情報に対する認識

今回の台風19号の通過より前の時点で、これらの情報が、市町村から出される場合があることをご存じでしたか。 **避難準備・高齢者等避難開始**



■ 知っていた ■ 知らなかった

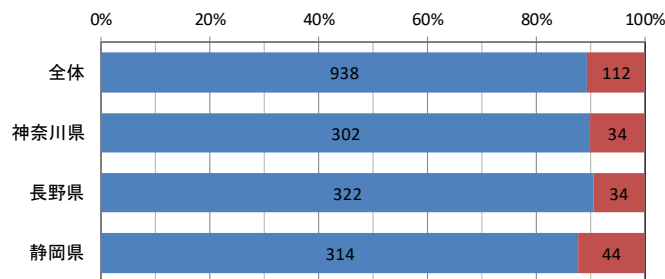
- 「避難準備・高齢者等避難開始」は、7割強の人が言葉として認知
- 平成30年7月豪雨時の広島、岡山より若干(10%以内)認知率が高い

※グラフ中の数値は回答者数

Shizuoka University

# 避難の情報に対する認識

今回の台風19号の通過より前の時点で、これらの情報が、市町村から出される場合があることをご存じでしたか。 **避難勧告**



■ 知っていた ■ 知らなかった

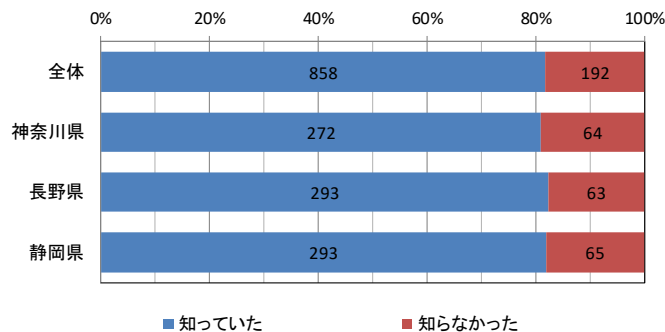
- 「避難勧告」は9割の人が言葉として認知
- 準備、勧告、指示の中では認知率が最も高い
- 平成30年7月豪雨時の広島、岡山と概ね整合

※グラフ中の数値は回答者数

Shizuoka University

# 避難の情報に対する認識

今回の台風19号の通過より前の時点で、これらの情報が、市町村から出される場合があることをご存じでしたか。 **避難指示(緊急)**



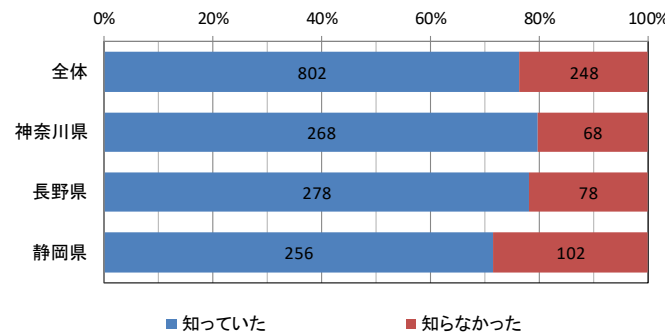
- 「避難指示(緊急)」は、8割強の人が言葉として認知
  - 平成30年7月豪雨時の広島、岡山と概ね整合
- 準備, 勧告, 指示ともに、言葉としては多くの人が認知している

※グラフ中の数値は回答者数

Shizuoka University

# 避難の情報に対する認識

今回の台風19号の通過より前の時点で、これらの情報が、市町村から出される場合があることをご存じでしたか。 **災害発生情報**



- 「災害発生情報」はおおむね7割強の人が言葉として認知
  - 避難準備・高齢者等避難開始と同程度
- ただし、本来の意味とは異なるものとしてとらえられている可能性(別の設問で言及)

※グラフ中の数値は回答者数

Shizuoka University

# 避難勧告等の危険度に対する認識

「避難勧告」などの情報は、「警戒レベル」という5段階の数字で整理されています。数字が大きいほど危険性が高いことを意味します。次のそれぞれの情報は、どの警戒レベルに該当すると思いますか。

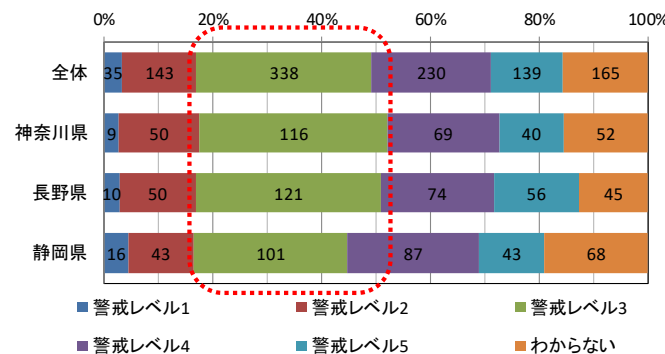
## 【選択肢】

1. 警戒レベル1
2. 警戒レベル2
3. 警戒レベル3
4. 警戒レベル4
5. 警戒レベル5
6. わからない

Shizuoka University

# 避難勧告等の危険度に対する認識

次のそれぞれの情報は、どの警戒レベルに該当すると思いますか。 **避難準備・高齢者等避難開始**



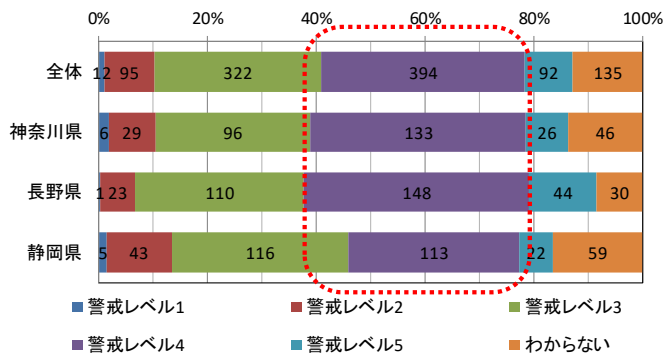
- 適切に認知(警戒レベル3)の回答が最も多いが、3割強にとどまる

※グラフ中の数値は回答者数

Shizuoka University

# 避難勧告等の危険度に対する認識

次のそれぞれの情報は、どの警戒レベルに該当すると思いますか。  
**避難勧告**

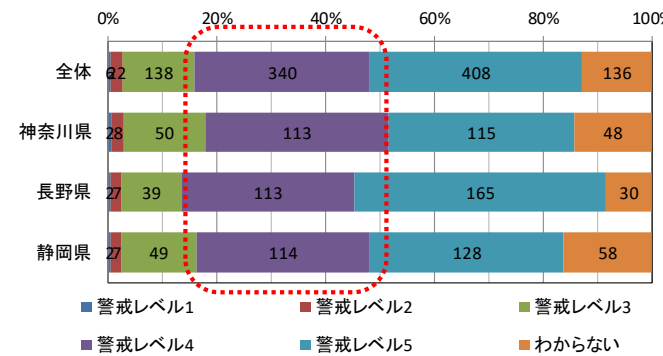


- 適切に認知(警戒レベル4)の回答が最も多いが、4割前後にとどまる
- 警戒レベル3と、低めに認知の回答が3割前後にのぼる

※グラフ中の数値は回答者数

# 避難勧告等の危険度に対する認識

次のそれぞれの情報は、どの警戒レベルに該当すると思いますか。  
**避難指示(緊急)**

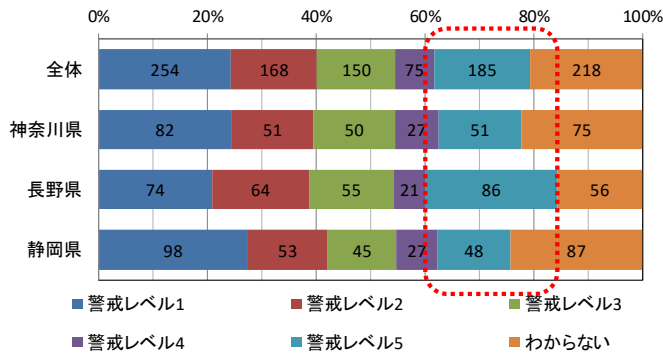


- 警戒レベル5と、現実と異なる認識の回答が最も多く、4割前後に
- 警戒レベル4と、適切に認知の回答は3割強にとどまる

※グラフ中の数値は回答者数

# 避難勧告等の危険度に対する認識

次のそれぞれの情報は、どの警戒レベルに該当すると思いますか。  
**災害発生情報**



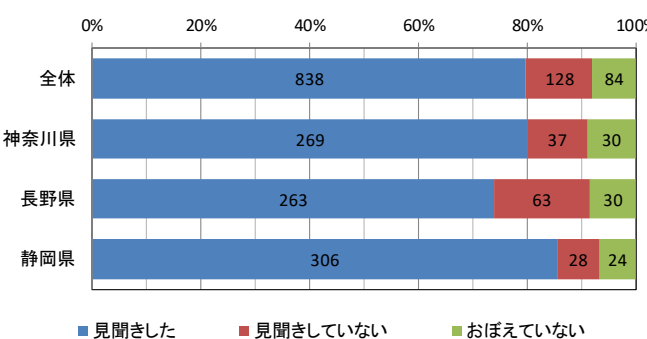
- 適切に認知(警戒レベル5)の回答は2割前後にとどまる
- 格別の避難行動を伴わない警戒レベル1, 2と、かなり弱い情報と認識の回答が4割程度
- 「わからない」も2割前後

「災害発生情報」は危険性の高い情報と受け止められていない可能性

※グラフ中の数値は回答者数

# 「狩野川台風に匹敵」の認知

気象庁は10月11日(金)に、今回の台風19号について「昭和33年の狩野川(かのがわ)台風



- 全体で8割の回答者が「見聞きした」と回答。
- 静岡県での認知率が相対的に高いが、長野県でも7割以上が認知。

※グラフ中の数値は回答者数

# 台風19号に対する上陸前日のイメージ

台風19号が上陸する前日(10月11日)頃の時点で、この台風に対してどのようなイメージを持っていましたか。

## 【イメージ】

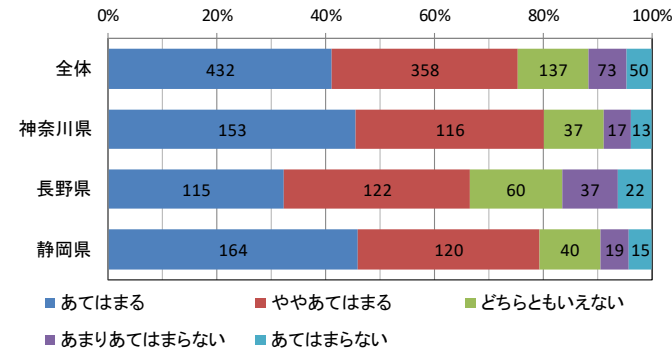
- 過去数十年間に日本に来た台風の中で最も大きな被害をもたらすかもしれない
- 狩野川(静岡県東部)付近で、大きな被害が出るかもしれない
- 自分が住んでいる市町村で、大きな被害が出るかもしれない
- 自宅が、洪水による被害を受けるかもしれない
- 自宅が、暴風による被害を受けるかもしれない
- 自宅が、数日以上にわたって停電するかもしれない

## 【選択肢】

- ①あてはまる      ②ややあてはまる      ③どちらともいえない  
 ④あまりあてはまらない      ⑤あてはまらない

# 台風19号に対する上陸前日のイメージ

過去数十年間に日本に来た台風の中で最も大きな被害をもたらすかもしれない

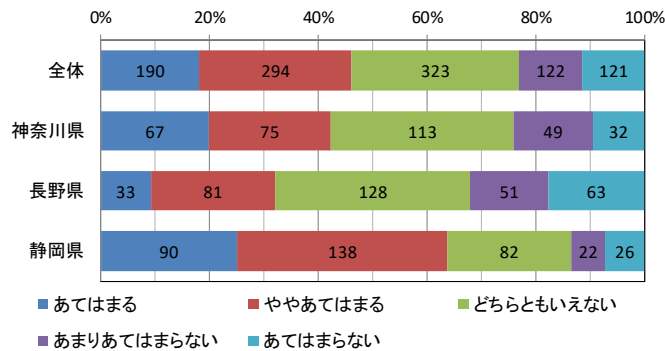


- 漠然と大きな被害が出るのでは、とイメージしていた回答者は、神奈川県、静岡では8割。
- 長野はやや低いのが7割弱

※グラフ中の数値は回答者数

# 台風19号に対する上陸前日のイメージ

狩野川(静岡県東部)付近で、大きな被害が出るかもしれない

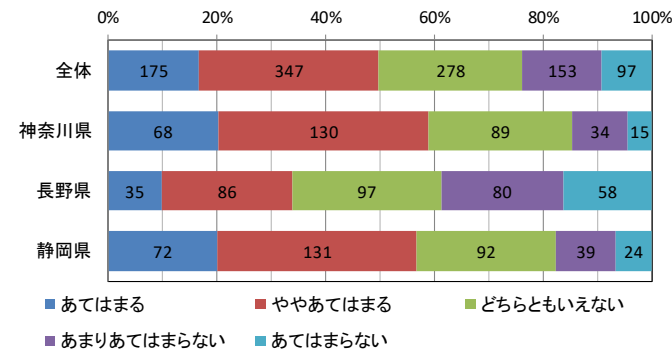


- 狩野川付近で被害が出るとのイメージが、静岡では6割強
- 神奈川県、長野では「どちらともいえない」も比較的多いが、「狩野川」付近での災害とイメージした回答者が3~4割は存在

※グラフ中の数値は回答者数

# 台風19号に対する上陸前日のイメージ

自分が住んでいる市町村で、大きな被害が出るかもしれない



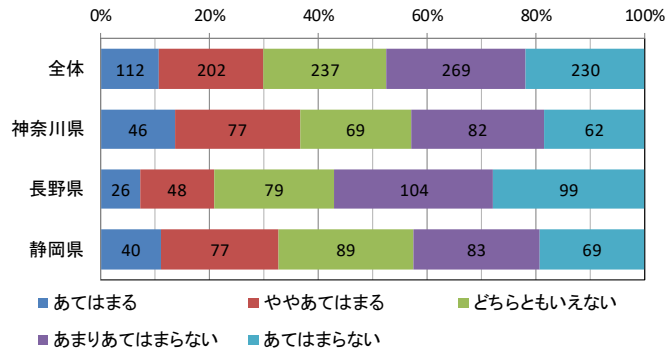
- 居住市町村での被害の可能性は神奈川県、静岡では6割がイメージ
  - 狩野川が被害の中心で居住地は関係ない、と多くの人が受け止めたわけではない可能性
- 長野では居住地の被害をイメージした人は3割強

※グラフ中の数値は回答者数



# 台風19号に対する上陸前日のイメージ

自宅が、洪水による被害を受けるかもしれない



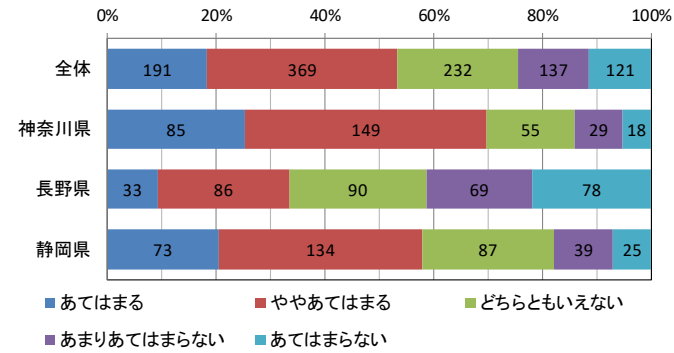
- 自宅の洪水の可能性をイメージした回答者は、神奈川県、静岡県で3割強、長野では2割
- ただし、そもそも自宅が洪水に対して危険性があると認識されていない可能性(別設問)

※グラフ中の数値は回答者数

Shizuoka University

# 台風19号に対する上陸前日のイメージ

自宅が、暴風による被害を受けるかもしれない



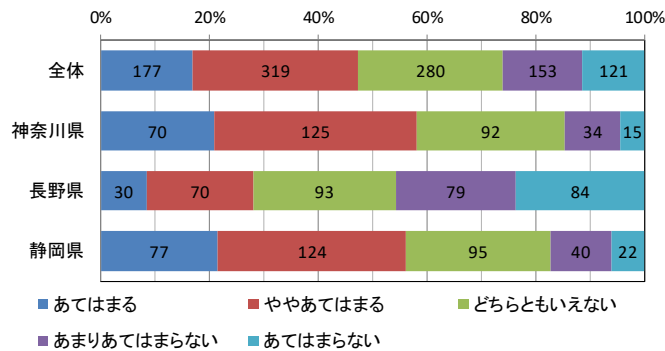
- 自宅の暴風による被害をイメージした回答者は、神奈川県、静岡県では洪水の被害をイメージした回答者より大幅に多い
- 長野でも洪水よりは多いが、3割強にとどまる

※グラフ中の数値は回答者数

Shizuoka University

# 台風19号に対する上陸前日のイメージ

自宅が、数日以上にわたって停電するかもしれない



- 長期の停電をイメージした回答者も、洪水をイメージした回答者よりかなり多い
- 長野では3割弱にとどまる

※グラフ中の数値は回答者数

Shizuoka University

# 大雨特別警報発表の認知

お住まいの市町村には、今回の台風19号に際して「大雨特別警報」が発表されましたか

## 【選択肢】

- ① 発表された
- ② 発表されていない
- ③ わからない

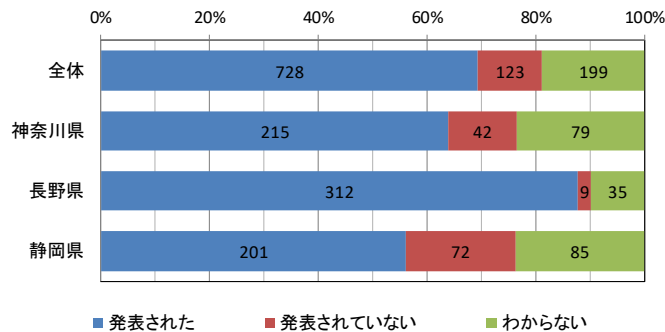
## 【実際の発表状況】

- 10月12日15:30 長野市
- 10月12日18:10 須坂市, 小布施町
- 静岡市, 平塚市, 茅ヶ崎市, 寒川町, 海老名市には、大雨特別警報は発表されてない。ただしいずれも県内の他市町村では発表

Shizuoka University

# 大雨特別警報発表の認知

お住まいの市町村には、今回の台風19号に際して「大雨特別警報」が発表されましたか



- 長野では9割が大雨特別警報の発表を認知
  - 平成30年7月豪雨の岡山、広島と整合的
- 実際には回答者の市町村では特別警報が発表されていない静岡、神奈川でも発表と認識が6割前後
  - 近隣地区に発表されると、周辺市町村にも注意喚起となる可能性も

※グラフ中の数値は回答者数

Shizuoka University

# 台風接近日の予定変更

台風が接近・上陸した10月12日(土)に、あなた自身は、台風を警戒する目的で、次のような自宅からの外出あるいは帰宅の予定を取り止めたか。

## 【イメージ】

- 勤務先への出勤、または帰宅
- 普段の勤務先以外の場所への仕事上の外出(出張等)、または帰宅
- 旅行・行楽のための外出、または帰宅
- 自分自身や家族の用事のための外出、または帰宅

## 【選択肢】

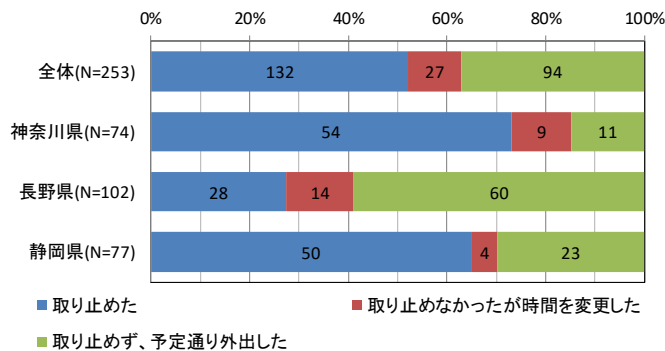
- ① 取り止めた
- ② 取り止めなかったが時間を変更した
- ③ 取り止めず、予定通り外出した
- ④ そのような予定はなかった

Shizuoka University

# 台風接近日の予定変更

台風が接近・上陸した10月12日(土)に、あなた自身は、台風を警戒する目的で、次のような自宅からの外出あるいは帰宅の予定を取り止めたか。

**勤務先への出勤、または帰宅**



- 神奈川、静岡では勤務の予定があった回答者の7~8割が予定変更
- 長野では4割程度

※「そのような予定はなかった」の回答者は除いた

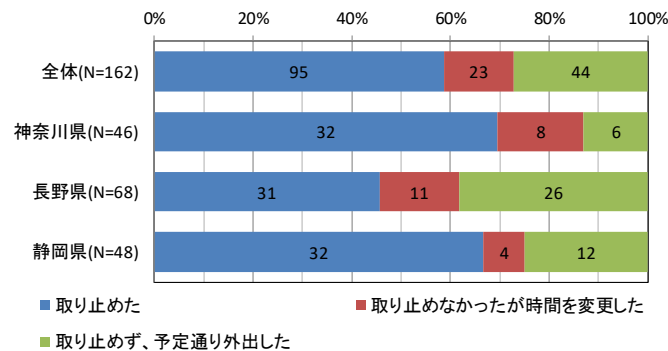
※グラフ中の数値は回答者数

Shizuoka University

# 台風接近日の予定変更

台風が接近・上陸した10月12日(土)に、あなた自身は、台風を警戒する目的で、次のような自宅からの外出あるいは帰宅の予定を取り止めたか。

**普段の勤務先以外の場所への仕事上の外出(出張等)、または帰宅**



- 神奈川、静岡では出張等の予定があった回答者の8割前後が予定変更
- 長野では6割

※「そのような予定はなかった」の回答者は除いた

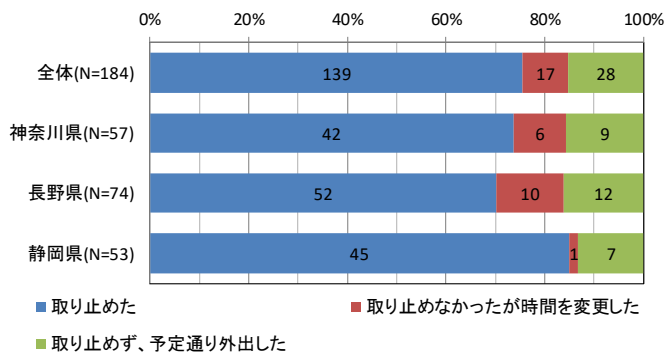
※グラフ中の数値は回答者数

Shizuoka University

## 台風接近日の予定変更

台風が接近・上陸した10月12日(土)に、あなた自身は、台風を警戒する目的で、次のような自宅からの外出あるいは帰宅の予定を取り止めたか。

**旅行・行楽のための外出、または帰宅**



● 神奈川、長野、静岡のいずれでも、旅行等の予定があった回答者の8割以上が予定変更

※「そのような予定はなかった」の回答者は除いた

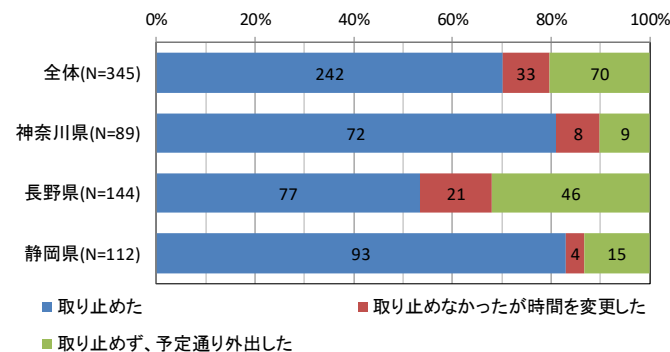
※グラフ中の数値は回答者数

Shizuoka University

## 台風接近日の予定変更

台風が接近・上陸した10月12日(土)に、あなた自身は、台風を警戒する目的で、次のような自宅からの外出あるいは帰宅の予定を取り止めたか。

**自分自身や家族の用事のための外出、または帰宅**



● 神奈川、静岡では、個人的外出の予定があった回答者の9割前後が予定変更  
● 長野では7割弱

※「そのような予定はなかった」の回答者は除いた

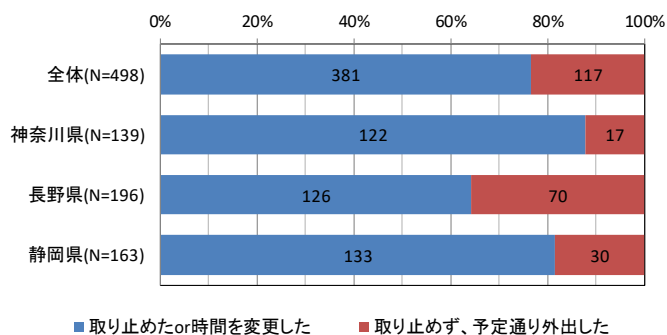
※グラフ中の数値は回答者数

Shizuoka University

## 台風接近日の予定変更

台風が接近・上陸した10月12日(土)に、あなた自身は、台風を警戒する目的で、次のような自宅からの外出あるいは帰宅の予定を取り止めたか。

**いずれかの予定変更**



● 勤務、出張、旅行、私的外出のいずれかの予定を変更した回答者は、神奈川、静岡では8~9割。  
● 長野は6割強

※「そのような予定はなかった」の回答者は除いた

※グラフ中の数値は回答者数

Shizuoka University

## 居住地の洪水に対する危険度認知 (低地付近居住者)

あなたが住まいの地区は、大雨による洪水の災害に対して安全だと思っていましたか

【選択肢】

- ① 安全
- ② まあ安全
- ③ やや危険
- ④ 危険
- ⑤ わからない

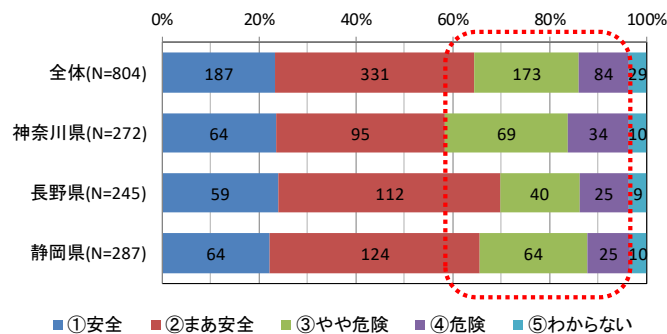
地形的に洪水の可能性のある「低地」付近に居住していると推定される回答者のみを集計

Shizuoka University



# 居住地の洪水に対する危険度認知 (低地付近居住者)

あなたがお住まいの地区は、大雨による洪水の災害に対して安全だと思っていましたか

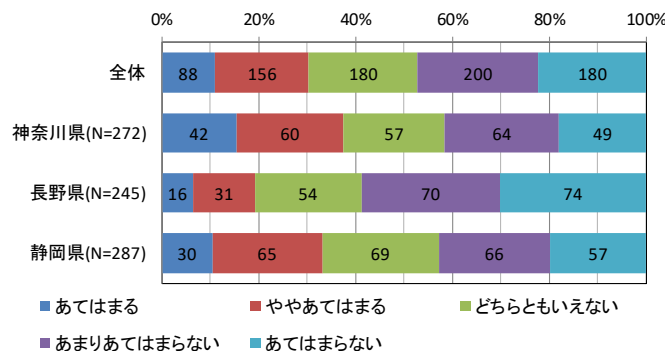


- 現実に近い、危険側の回答(③④)は、全体で3割強
- 神奈川では4割弱、長野、静岡では3割前後  
- 平成30年7月豪雨の岡山、広島でも3割前後

※「あなたがお住まいの地区」について聞いており、「自宅の危険度」を聞いているものではない

# 台風19号に対する上陸前日のイメージ (低地付近居住者)

自宅が、洪水による被害を受けるかもしれない



- 自宅の洪水の可能性をイメージした回答者は、低地付近居住者であっても、神奈川、静岡で3~4割、長野では2割

※グラフ中の数値は回答者数

## 要点

- 「大雨特別警報という情報の存在は9割以上が認知していたが、その意味を適切に認知していたのは5割弱
- 警戒レベルの数値と、避難勧告等の言葉の関係を適切に認知は3~4割
  - 避難勧告は、レベル3と低めに認知している回答者が3割前後
  - 避難指示は、レベル5と高めに認知している回答者の方が多く4割前後
- 「災害発生情報」という言葉は、レベル1や2と認識の回答が4割
  - 危険性の高い情報と受け止められていない可能性
- 「狩野川台風に匹敵」という情報は8割前後の回答者が聞いていた
  - 静岡では狩野川付近で大きな被害というイメージを持った回答者が6割強、神奈川・長野でも3~4割存在し、特定の場所での被害イメージにある程度つながった可能性
- 居住市町村での被害は神奈川、静岡では6割程度がイメージ。長野では3割程度
  - 自宅の停電、暴風の被害は比較的多くの回答者がイメージ、洪水をイメージした回答者は少
  - 自宅の洪水、暴風、停電のいずれも、長野では被害を受けるとイメージした回答者が少ない
- 長野で大雨特別警報が発表されたことは9割が認知
  - 実際には発表されていない(県内他市町村では発表)、神奈川、静岡でも6割前後が発表と認識。
  - 近隣地区に発表されると、周辺市町村にも注意喚起となる可能性
- 台風上陸当日の外出予定を何らかの形で取り止め・変更した回答者は、神奈川、静岡では8割以上が実施だが、長野では6割程度(出勤の取り止め変更は4割)。
  - 対数にそなえた行動の抑止がかなり行われた可能性
- 居住地の洪水に対する危険性について、危険側認知回答者は3~4割。
  - 居住地の災害特性が十分理解されていない可能性